

[QNと他クリーンフィルムの比較]

	バイオマス度	微粒子数(個/cm <sup>2</sup> )
QN	約65%	0.4
四国化工 現行品A	0%	5
他社製品A	0%	0.8
他社製品B	0%	20.4

四国化工が開発した「QNバイオマスクリーライム」は、石油由来の高汚染クリーン度の高いボリエチレンとバイオマス原料を使用。これまで、製造技術のノウハウを活用し、原料の配合を調整してクリーン度を高めた。

(液中)パーキナルカーブンターナー)は半導体製造工程の品質管理に不可欠だ。測定した結果、同社の現行品が0・5個以下の微粒子数5・0個/平方センチに対し、QNバイオマスクリーライムは0・4個/平方センチといふ低ドC値を実現。国内の半導体製造装置メーカーが一部評価を実施し



## 四国化工

バイオマス原料を65%以上使用したうえで高いクリーン度を実現

## 半導体部品向けなど

森グループの四国化は、バイオマス(植物性)由来、原料使用率とクリーン度の向上を高めさせたハイクーリンバイオマスマスクフィルムを開発した。バイオマス原料を使用したクリーンフィルムは、同社による世界初となる。サトウキビ由来のバイオマス原料を65%以上使用し、二酸炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を現行品で35%以上削減。従来品の石油由来フィルム以上のクリーン性を実現した。クリーンルームでの使用も可能。半導体部品や洗浄部品向けに展開する。環境に配慮したクリーン度の高い製品という価値と優位性を訴求し、拡販につながる。

# 環境対応・性能高度に両立

## バイオマスマスククリーンフィルム

製品の採用を積極的に検討する機運が高まっている(四国化)。既存顧客への提案と並行して、開発中の認知度向上のための活動を進めている。その一環として、28(30)日に東京ビッグサイトで開催される「アリーナマテリアル2026」に展示。QNバイオマスフィルムは、従来品と比べても引張り強さ、引き裂き強さなど物性強度を大きく損なっていない。バイオマスマスクフィルムは、高価というイメージに対する認識を変えて、コスト削減による付加価値が認められ非常に高い評価を受けた。

な結果、クリーン度は65%格になった。さらに環境に配慮したクリーン度が認められ非常に高い評価を受けた。サプライチャーン全株企業ではサステナブルな

ことができるようだ。一数割のコスト上昇で同等もしくはそれ以下のフィルムを供給できることが、採用への検討要因の

複数の環境配慮商品を

展示する。開発中は、

ます日本市場で確固たる

地位の確立を目指し、将

来的にはグローバル展開

も視野に入れる。